

刑法附則
治罪法追告

解釋附錄

三輪鑿
藏編纂

全

特58
898

035938-000-3

特58-898

刑法附則治罪法追告解釈附録

三輪 鑿藏 / 編

M15

BBP-0536



三輪賢金藏編纂

刑法附則
治罪法違害
解釋附錄

明治十五年
第二月發兌

寶文軒藏版

大坂 寶文軒

例言

一 曩ニ刑法治罪法ヲ頒布セラレ、ニ當リ其通讀解意ニ便ナラシメン
タメ刑法解釋治罪法解釋ナルニ書ヲ編シテ世ニ公シタリシカ其
ノ實施ノ期ニ迫リテヤ官ハ當時ノ情態ヲ酌ニ或ハ増補シ或ハ改正
シ或ハ条ヲ補ヒ世ノ便ニ供センタメ公布公達セラレシモノ茲ニ數
十号ノ多キニ至リ皆ナ之レ世人ノ服膺スベキ件要的ニ諷ルモノナ
ルエ今輯メテ卷冊トナシ刑法治罪法解釋ノ附録トナシ世ニ公ニス
世人本篇ト併セテ法典ノ完キヲ知ルベシ

一 本書ノ体裁ハ一ニ本篇ノ体裁ニ趣ルモノニシテ一々傍訓ヲ附シ婦
女子ト虽凡解シ易クセシモノナレバ今又其ノ例言ヲ贅セズ

明治十五年二月

編者識

例言

一 曩ニ刑法治罪法ヲ頒布セラレ、ニ當リ其通讀解意ニ使ナラシメン
 タメ刑法解釋治罪法解釋ナルニ書ヲ編シテ世ニ公ニシタリシカ其
 ノ實施ノ期ニ迫リテヤ官ハ當時ノ情態ヲ酌シ或ハ増補シ或ハ改正
 シ或ハ条ヲ補ヒ世ノ便ニ供センタメ公布公達セラレシモノ茲ニ數
 十号ノ多キニ至リ皆ナ之レ世人ノ眼膺スベキ件要的ニ談ルモノナ
 ルユヘ今輯メテ卷冊トナシ刑法治罪法解釋ノ附録トナシ世ニ公ニス
 世人本篇ト併セテ法典ノ完キヲ知ルベシ

一 本書ノ体裁ハ一ニ本篇ノ体裁ニ趣ルモノニシテ一々傍訓ヲ附シ婦
 女子ト虽凡解シ易クモナレバ今又其ノ例言ヲ贅ヒズ

明治十五年二月

編者識

刑法附例釋

一〇八一

大坂 泉堂刊

刑法附則
治罪法通告
解釋附録目次

刑法附則ノ部

第一章 主刑執行

一丁才

第二章 監視

五丁才

第三章 假出獄及特別監視

五丁才

第四章 刑事裁判費用

六丁才

第五章 賠償處分

七丁才

刑法通告之部

○太政官第七十二號布告

九丁才

○太政官第八十一號布告

空 才

治罪法通告之部

△第一類 治罪法第一篇三關スルモノ

十三丁才

○太政官第四十六號布告第一項

空

○司法省第十八號達

空

○司法省丙第十五號達

十三丁才

○司法省丁第二十六號達

空

△第二類 治罪法第二篇二關スルモノ

十六丁才

○太政官第四十六號布告第二項

空

○太政官第四十八號布告

空

○太政官第五十三號布告

空 才

○太政官第五十四號布告

空

○太政官第五十五號布告

空

○太政官第五十六號布告

十七丁才

○太政官第五十七號布告

空

○太政官第六十五號布告	全	ウ
○太政官第七十六號布告	全	十八丁才
○太政官第七十七號布告	全	ウ
○太政官第七十八號布告	全	ウ
○太政官第七十九號布告	全	二十二丁才
○太政官第八十號布告	全	ウ
○太政官第八十三號布告	全	ウ
○太政官第二號布達	全	三十三丁才
△第三類 治罪法第二篇二關スルモノ	全	ウ
○太政官第四十六號布告	全	ウ
○太政官第四十七號布告	全	二十四丁才
○太政官第八十二號達	全	ウ

○太政官第五十九號布告	全	ウ
○司法省丙第二十號達	全	二十五丁才
△第四類 治罪法第四篇二關スルモノ	全	ウ
○太政官第四十五號布告	全	ウ
○司法省甲第七號布達	全	ウ
○司法省甲第八號布達	全	ウ
○司法省第三十一號達	全	北六丁才
○十五年太政官第一號布告	全	ウ
△第五類 治罪法中數篇二關スルモノ	全	ウ
○太政官第七十七號達	全	ウ
○太政官第四十四號布告	全	ウ
○太政官第八十六號達	全	ウ

○司法省甲第五號布達	廿七丁才
○太政官第六十四號布告	全
○太政官第七十一號布告	全
○太政官第七十三號布告	全
○太政官第七十四號布告	全
○太政官第八十二號布告	全
○裁判所管轄一覽表	自二十九丁 至三十四丁

目次終

刑法附則解釋

三輪鑿裁 編纂

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ
 囚人ニ死刑ヲ執行ス可キトテ告示シタル後執行シテ之ヲ決行セシム但其時
 限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ル
 ヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在テス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共
 ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス
 元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ總務ヲシテ之ヲ

検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産

後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケテ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ

許可シテ付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ

其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ兩籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ

記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ケ可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可キ得但共路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムルヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁錮輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居該地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ送送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間左ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルノ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ
第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滞滯シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期間間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ檢改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セテラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレントテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其護票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄護票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
 - 二 殘期何年何月何日之間假出獄ヲ許ス事
 - 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
 - 四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事
- 第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其護票ノ騰本ヲ添へ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムトテ得サル事故アリテ警察所ニ到ル不能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
- 三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往後一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ送送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通譯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ

裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五十錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿二拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サルハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日當ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若子ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖含密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外

別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ轉賣シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物轉賣シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムルヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムルヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得

ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スルヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從テ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

刑法附録

○太政官第七十二号布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處断ス可シ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上一圓九

十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處断ストアリ及ヒ智可申付

トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪併發ノ例ヲ用ヒ

ス

刑法第五系參看

刑法附則解釋

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正条アルモノハ刑法ニ依テ處断ス

第七條 前數条ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ

裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○太政官第八十一号布告

刑法第三條第二項ニ依リ新旧法ヲ比照スルニハ左ニ從フ可シ

第一條 新旧法比照スルニハ左ノ如シ

新法

旧法

一 死刑

斬絞

二 無期徒刑

懲役終身

三 有期徒刑

四 無期徒刑

禁獄終身

五 有期徒刑

六 重懲役

懲役十年

七 輕懲役

懲役七年

八 重禁獄

禁獄十年

九 輕禁獄

禁獄七年

十 重禁錮

懲役十一年以上

十一 輕禁錮

禁獄禁錮十一年以上

十二 罰金

懲役禁錮罰金

十三 拘留

懲役禁錮罰金

十四 科料

懲役禁錮罰金

第二條 旧法ノ刑期新法主刑ノ刑期ニ在ル時ハ新法ニ從フ但旧法ノ刑期ニ

刑去付川再釋

刑法第三條第七項參看

過ケルヲ得ス

旧法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類
若シ旧法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクメ旧法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ旧法ニ從フ

旧法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上十年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ旧法ニ從ヒ禁錮三十日ニ處スルノ類

第三條 旧法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ヲ過ケルヲ得ス

旧法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照シ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

旧法新法ノ刑其短期等シクシテ旧法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ旧法ニ從フ

旧法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁錮ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處スルノ類

第四條 旧法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但旧法ノ金額ニ過ケルヲ得ス

第五條 旧法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過ケルヲ得ス

第六條 旧法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金を附加ス可キ時ハ其罰金を附加セズ

第七條 旧法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ旧法ニ於テ贖罪若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ旧法ニ

從フ

第八條 旧法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト異尺仍ホ一日ニ當算ス

第九條 旧法ニ於テ體刑ニ課ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族道尊位記收ノ類ハ新法ニ從フ

第十條 旧法ニ於テ體刑ニ課ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ課ル者旧法ニ從ヒ處断スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト旧法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 旧法ニ於テ棒鎖ニ課ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

治罪法附錄

△第一類 治罪法第一篇二關スルモノ

編者謹テ白ス治罪法ノ通告追達ハ甚ダ多クシテ之レヲ月日ノ順序ニ編ス

ル時ハ續者ニ便ナラザルヲ慮リ今茲ニ編者ノ意ヲ以テ類ヲ分チ續者ノ便

ニ供フ

○太政官第四十六号布告懸

書類送達二月治罪法第二十四条ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不及其候事

○司法省丁第十八号達

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書別紙之通相達候事

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各自輪轉之ヲ執リ豫メ其主掌ヲ定メス

第二條 訟廷ノ取締被告人和所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

治罪法附錄

第一類 治罪法第一篇二關スルモノ

第三條 訟廷口誥ハ雇負ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其佗訟廷ニ關スル雜事ノ

使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置クトキハ雇負又ハ

小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムベシ

但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇負等ニテ之ヲ務メシノ在宅當番(退廳後ヲ云フ)ハ判

任官ニテ順次之ヲ務メシムベシ

但東京裁判所ハ此限ニ非ラス

○司法省丙第十五号達

治罪法中犯人証人等押印ノ條々實印無之者ニ限り從來ノ慣例ニ依リ押印爲致候儀ト心得ベシ此旨相達候事

○司法省丁第二十六号達

使丁規則別冊之通相定候条明治十五年一月一日ヨリ施行スヘク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル

爲ノ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人トス

但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ルモノトス

使丁ノ人負ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

第五條 使丁ハ送達ヲナス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第六條 送達ヲナスニハ其法律規則ニ從フヘシ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付キ代人トナリテ訴訟ニ出ルコトヲ許サ

治罪法附録

ス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニヨル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルヲ得

第九條 送達貨錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラズ一通ニ付一里五錢以下トス
貨錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其貨錢高ヲ附記スヘシ

第十條 貨錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達貨錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置クヘシ
但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置クヘシ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通車ノ呼出状

二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人へ通知及ヒ呼出状

三 檢察官ヨリ被告人へ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達貨錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十三條 送達貨錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲナスヘシ
第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出スヘシ

第十五條 使丁取締及使丁ハ此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十円以下ノ違約金ヲ納シムルコト
二 解職セシムルコト

治罪法附録

第一類 治罪法第一篇ニ關スルモノ

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其ノ裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ル丁ヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十円以上ノ價格アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムヘシ
但此保証金ハ解職ノ時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ
但書記不足ナル片ハ雇子以テ之ニ充ツ可シ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 使丁規則
- 二 讀負郡村ノ地名又ハ里數
- 三 普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限りノ處分ヲ受ケ未タ納償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タル丁ヲ許サス

△第二類 治罪法第二編ニ關スルモノ
○太政官第四十六号布告第三項

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分
明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ填託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判
所之ヲ管轄スヘシ

○同前
治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト指定候
事

○太政官第四十八号布告
刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ

警察分署ニテ裁判可致候条此旨布告候事

○太政官第五十三号布告

各裁判所ノ位置及管轄ノ區畫別表ノ通改正シ明治十五年一月一日ヨリ施行候条此旨布告候事

編者白ス裁判所一覽表ハ卷末ニ附ス

○太政官第五十四号布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所在ノ地ヲ徐クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲ス丁ヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ認廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續ニ付テハ上...

○太政官第五十五号布告

治罪法第七十三条末文陪席判事第七十九条第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

○太政官第五十六号布告

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所(即チ違警罪裁判所)始審裁判所即チ輕罪裁判所ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候条此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○太政官第五十七号布告

伊豆七島裁判事務當分該島吏(民事ハ百円以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百円以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候条此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○太政官第六十五号布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ

因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告誡告發ヲ爲スヲ得

第二條 船長告誡告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ知リタル

時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及事實參考ト爲ル可キ車

物ヲ集取シ調書ヲ作ルハシ但調書ヲ作ルヲ能ハサル時ハ第三條ニ記載シタ

ル官吏ニ其申之ヲ爲スヘシ

前條 場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ車物ヲ取纏ノ被告人ト共ニ該船

碇泊又ハ着港地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡ス可シ若シ外國ノ港埠ニ着シタ

ル時ハ其地駐在ノ領事ニ之ヲ引渡ス可シ

○太政官第七十六号布告

本年十月第五十三号布告裁判所名稱區劃表始審ノ行中相川豊岡洲本田邊阪町高

山西郷平戸福江嚴原天草大曲八戸ノ名稱ヲ削除シ其管轄ハ相川ヲ新海ニ豊岡ヲ

姫路ニ洲本ヲ神戸ニ田邊ヲ和歌山ニ股町ヲ徳島ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ平

戸福江嚴原ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ大曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ合併ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第七十七号布告

本年十月第五十四号ヲ以テ輕罪ニシテ懲罰ヲ要スルモノニ限り治安裁判所ニ

於テ輕罪裁判所ヲ關クヲ得ニキ旨布告候處當分ノ内相川豊岡洲本田邊阪町高山

西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ關キ

總テノ輕罪ヲ裁判スルヲ得可シ

但本ノ場合ニ於テ訟廷内治罪ノ手續等ハ本年第五十四号布告但書ノ通夕
ルバシ

右奉 勅旨布告候事

○太政官第七十八号布告

重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定ノ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
但治罪法第七十二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一所又ハ數ヶ所開廳スベ
シ

右奉 勅旨布告候事

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所管轄

東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所管轄

横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所管轄

新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所管轄

浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所管轄

千葉 水更津始審裁判所管轄ノ地方

栃木重罪裁判所管轄

栃木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所管轄

前橋始審裁判所管轄ノ地方

治罪法附録

第三類 治罪法第二篇ニ關スルモノ

茨城重罪裁判所管轄

水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪裁判所管轄

甲府始審裁判所管轄ノ地方

静岡重罪裁判所管轄

静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方

長野重罪裁判所管轄

松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方

大阪重罪裁判所管轄

大阪 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪裁判所管轄

京都 園部 宍津始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪裁判所管轄

神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方

和歌山重罪裁判所管轄

和歌山始審裁判所管轄ノ地方

滋賀重罪裁判所管轄

大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方

徳島重罪裁判所管轄

徳島始審裁判所管轄ノ地方

岡山重罪裁判所管轄

岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方

福井重罪裁判所管轄

福井始審裁判所管轄ノ地方

石川重罪裁判所管轄

金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方

高知重罪裁判所管轄

高知 中村始審裁判所管轄ノ地方

愛媛重罪裁判所管轄

松山 高松 宇和島始審裁判所管轄ノ地方

長崎重罪裁判所管轄

長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方

福岡重罪裁判所管轄

福岡始審裁判所管轄ノ地方

熊本重罪裁判所管轄

熊本始審裁判所管轄ノ地方

大分重罪裁判所管轄

大分 中津始審裁判所管轄ノ地方

鹿児島重罪裁判所管轄

鹿児島 官崎始審裁判所管轄ノ地方

沖繩縣管轄ノ地方

函館重罪裁判所管轄ノ地方

函館始審裁判所管轄ノ地方

開拓使(札幌根室)本廳管轄

青森重罪裁判所管轄

弘前始審裁判所管轄ノ地方

愛知重罪裁判所管轄

名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方

岐阜重罪裁判所管轄

岐阜始審裁判所管轄ノ地方

三重重罪裁判所管轄

安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方

富城重罪裁判所管轄

仙臺始審裁判所管轄ノ地方

福島重罪裁判所管轄

福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方

磐手重罪裁判所管轄

盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方

山形重罪裁判所管轄

山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方

秋田重罪裁判所管轄

秋田始審裁判所管轄ノ地方

廣島重罪裁判所管轄

廣島 尾道始審裁判所管轄ノ地方

山口重罪裁判所管轄

山口始審裁判所管轄ノ地方

島根重罪裁判所管轄

松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取重罪裁判所管轄

鳥取 米子始審所管轄ノ地方

○大政官第七十九号布告

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年(十月)第五十三号ヲ以テ布告候處北海道

(函館始審裁判所管内ヲ除ク) 并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分従前ノ通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪手續モ便宜ノ取計ヲ為ス可シ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス
右奉 勅旨布告候事

○大政官第八十号布告

本年(九月)第四十八号布告左之通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六号布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所

ニ於テ裁判スベキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムベシ

右奉 勅旨布告候事

○大政官第八十三号布告

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ権限左ノ通制定ス

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係

リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限リニ在ラズ

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百円未満ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ

為ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラザルモノヲ裁判スル丁テ

得不

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百円以上並ニ第三條ニ掲ゲタル治

安裁判所權外訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ為ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付

終審裁判ヲ為ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九号布告控訴手續ニ照準ス可シ

○大政官第二号布告

本年十月第五十三号布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候ニ付テ

ハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心得ベシ
右布達候事

△第三類 治罪法第三篇二關スルモノ

○大政官第四十六号布告第四項 第五項 第六項 第七項

治罪法第一百一条ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其挙動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ハ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得

○同前

治罪法第一百三十三条第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘドモ芝居人寄席飲食店湯屋遊戯宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト並ニ其營業ヲ爲ス時間又旅館屋賃座敷ハ日出前日没後ニ拘ハテス搜索致シ苦シカラズ

○同前

治罪法第六十八條第六十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

○同前

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サル旨記載有之候ヘドモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラズ

○太政官第四十七号布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ従フベシ此旨布告候事

第一条 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故旧ヨリ何時ニテモ呼出ニ應ジ出廷セシムベキ証書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムベシ

第二条 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スベシ

第三条 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ支理ナクシテ出廷セザル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消ス可シ

○太政官第八十二号達

司法官吏ヨリ巡查及決員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ従フベシ此旨相達候事
第一条 裁判官檢察官及ビ司法警察官治罪法ニ従ヒ檢証及物件差押へ其他職
務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵
率ヲ使用スル事ヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二条 前条ノ場合ニ於テ事機緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ八分官ニ照
會シテ兵力ヲ要求スル事ヲ得

○太政官第五十九号布告

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限
四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クベシ此旨相
達候事

○司法省丙第二十号達

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二条ノ令狀ハ總テ
其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

△第四類 治罪法第四篇ニ關スルモノ

○太政官第四十五号布告

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ証人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告
候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ原
裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシム可シ若シ豫納スル
不能ハサレ時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス

豫審又ハ公判ニ付証人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判所ニ於テ其旅費日當
等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ

若シ被告人控費日嵩テ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第百七十余ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クヘシ

○司法省甲第七号布達

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ贈本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

○司法省甲第八号布達

大審院諸裁判所々屬代官人規則別紙ノ通り相定候条違旨布達候事

所屬代官規則

第一條 治罪法中所属代官人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代官人ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代官人辯護人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラザレバ之ヲ辭スルヲ得ス

第三條 代官又ハ辯護受任中ハ代官免許満期ニ至リ引續官業セス又ハ廢業スト届出詎事終結ニ至ル迄其代官辯護ヲ擔當スベシ

第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ關クヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スベシ

○司法省第三十一号達

本年(本月)甲第七号布達裁判言渡ノ贈本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不替儀ト可心得此旨相達候事

○十五年太政官第一号達

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルベシト有之候得共其裁判所屬ノ代官人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護

治罪法附錄

人ヲ用ヒザルモ其刑ノ言渡無効ノ限リニ在ラス
右奉 勅旨布告候事

△第五類 治罪法中教篇ニ關スルモノ

○太政官第七十七号達

刑法第百三十条ニ依リ各地方ノ便宜ニ隨ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務省ヘ届出ツヘシ此旨相達候事

○太政官第四十四号布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト虽モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ於テハ總テ上訴ヲ許サズ此旨布告候事

○太政官第八十六号達

治罪法實施ニ於テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所

長ノ照會ニ應シ一名又ハ数名ノ巡查員ヲ結又拘留被告ハ審問中其護衛ノ巡查或ハ押下ヲシテ守卒トシテ公廷ニハリ着議セシムヘシ此旨相達候事

○司法省甲第五号布達

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ之アルベク候条此旨布達候事

○太政官第六十四号布告

密賣法ノ儀ハ刑法第四百二十五条第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第七十一号布告

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢査職務ヲ代理セシム

治罪法附録

右奉 勅旨布告候事

○太政官第七十三号布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ビ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通無能力者

一 未丁年者

二 妻タル者

三 白痴癡癪人

四 治産ノ禁ヲ受ケタル者

法律ニ定メタル代人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人

二 夫タル者

三 白痴癡癪人ノ保管者

四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二 夫タル者

三 白痴癡癪人ノ保管者

四 雇主

但雇人其雇主ノ命ジタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事

○太政官第七十四号布告

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第八十二号布告

台罪去付録

第五類 治罪法中救済ニ關スルモノ

法律附錄

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事八十
 五年一月一日以後ト屢ニ治罪法ニ拘ハラヌ被水從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘッ
 右奉 勅旨布告候事

裁判所管轄一覽表

控訴 始審	大 東 京		控訴
	橫濱	東京	始審
	八王子 小田原 橫濱	品川 本所區 本郷區 芝區 四谷區 麹町區 淺艸區 下谷區 京橋區 日本橋區	治安府縣
	神奈川縣	東京府	國名
相模 相模 相模	武藏	區郡名	區郡名
津久井 南西北多摩	足柄上 足柄下 大住 陶綾 愛甲	三浦 久良岐 編野 高野	日本橋區 京橋區ノ内 下谷區 神田區ノ内 北豐島區ノ内 淺艸區 本所區ノ内 南足立區 南葛飾區ノ内 北豐島區ノ内 麹町區 神田區ノ内 千代區 南豐島區ノ内 四谷區 赤坂區 東多摩區 南豐島區ノ内 荏原區ノ内 麻布區 荏原區ノ内 南豐島區ノ内 本郷區 小石川區 神田區ノ内 北豐島區ノ内 本所區ノ内 深川區 南葛飾區ノ内 芝區ノ内 荏原區ノ内

一治安府縣 國名 區郡名 三十九

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事八十
 五年一月一日以後ト虽モ治罪法ニ拘ハラヌ被水從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ
 右奉 勅旨布告候事

裁判所管轄一覽表

控訴 始審	大 東 京		控訴
	横濱	東京	始審
	八王子 小田原 横濱	品川 本所區 本郷區 芝區 四谷區 麹町區 淺艸區 下谷區 京橋區 日本橋區	治安府縣
	神奈川縣	東京府 武藏	國名
相模 相模 相模 相模	芝區ノ内 荏原ノ内 本所區ノ内 深川區 南葛飾ノ内 本郷區 小石川區 神田區ノ内 北豐島ノ内 芝區ノ内 麻布區 荏原ノ内 南豐島ノ内 四谷區 赤坂區 東多摩 南豐島ノ内 荏原ノ内 麹町區 神田區ノ内 午込區 南豐島ノ内 淺艸區 本所區ノ内 南足立 南葛飾ノ内 北豐島ノ内 下谷區 神田區ノ内 北豐島ノ内 京橋區ノ内 日本橋區 京橋區ノ内	區 郡 名	
國名	區郡名	三十九	

控訴始審
治安
府縣
國名
區郡名

控												
千葉	水更津	水更津	水更津	土浦	土浦	栃木	宇都宮	浦和	熊谷	前橋	前橋	静岡
千葉	八日市場	水更津	水更津	土浦	土浦	下妻	宇都宮	浦和	熊谷	前橋	高崎	静岡
千葉縣	千葉縣	茨城縣	茨城縣	茨城縣	栃木縣	栃木縣	宇都宮縣	浦和縣	熊谷縣	群馬縣	群馬縣	静岡縣
下	上	常	常	常	下	下	下	下	武	上	駿	伊
下總	上總	常陸	常陸	常陸	下野	下野	下野	下野	武藏	上野	駿河	伊豆
下總	上總	常陸	常陸	常陸	下野	下野	下野	下野	武藏	上野	駿河	伊豆
千葉	千葉	茨城	茨城	茨城	栃木	栃木	宇都宮	浦和	熊谷	群馬	群馬	静岡
千葉	千葉	茨城	茨城	茨城	栃木	栃木	宇都宮	浦和	熊谷	群馬	群馬	静岡
那加加茂内	庵原有度	新田山田邑	西群馬	東群馬	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉
那加加茂内	庵原有度	新田山田邑	西群馬	東群馬	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉

判												
濱松	甲府	松本	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野
濱松	甲府	松本	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野
濱松縣	甲府縣	山梨縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣
遠江	甲斐	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃
遠江	甲斐	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃
那加加茂内	庵原有度	新田山田邑	西群馬	東群馬	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉
那加加茂内	庵原有度	新田山田邑	西群馬	東群馬	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉	北埼玉

給養
治安
府縣
國名
區郡名
三十

控訴 始審 治安 府縣 國名 區郡名

大			所			
園部	大阪	京都	相川	高田	長岡	新發田
福知山	天王寺	下京	相川	高田	柏崎	村上
京都府	大坂府	京都府	新瀨縣	新瀨縣	新瀨縣	新瀨縣
丹波	河津	山城	佐渡	越後	越後	越後
天田 何鹿	船井 北桑田	乙訓 紀伊 久世 相樂 綴喜 宇治 内	全國三郡	中魚沼	刈羽 内	北蒲原
		上京區 愛宕 内 葛野 内		東頸城	古志 北魚沼 三島 刈羽 内	岩船
		下京區 變宕 内 葛野 内 宇治 内		西頸城		
		西區 北區 内 西成 内				
		西成 内 東成 内 島上 島下 能勢 豐島				
		南區 内 西成 内 東成 内 住吉				
		北區 内 河内 若江 藤川 高安 志紀 内				

阪									
宮津	神戶	姫路	豐岡	洲本	岡山	津山	大津	彦根	福井
宮津	神戶	姫路	豐岡	洲本	岡山	津山	大津	彦根	福井
京都府	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	岡山縣	岡山縣	滋賀縣	滋賀縣	福井縣
丹後	攝津	播磨	但馬	淡路	備前	備中	美作	近江	越前
全國五郡	神戸區 八部 菟原 武庫 川邊 有馬	多紀 水上	全國八郡	全國二郡	岡山區 全國八郡	加陽 宇都	小田 後月 下道 窪屋 淺口	全國十二郡	滋賀 野洲 芳賀 栗太 蒲生 高島
								遠敷 大飯	神崎 愛智 大上 阪田 伊香 西淺井
								敦賀	敦賀
									南條 全立 丹生 吉田 坂井 足羽

控訴 始審 治安 府縣 國名 區郡名 三十一

審

判 裁 訴

脇町	德島	田邊	和歌山	奈良	堺	七尾	富山	金澤	
脇町	德島	田邊	和歌山	奈良	堺	七尾	富山	高岡	大野
德島縣	德島縣	和歌山縣	和歌山縣	大坂府	大坂府	石川縣	石川縣	石川縣	
阿波	阿波	紀伊	紀伊	大和	和泉	能登	越中	越中	加賀
美馬 三好 麻植 阿波	名東 名西 勝浦 那珂 海部 板野	日高 疎牟婁	和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有田	宇智 吉野 葛上 忍海 高市内 葛下 内	丹南 八上 古市 石川 錦部	珠洲 鳳至	鹿島 羽咋	射水内 礪波内 庄川以西	全澤區 河北 石川

控訴
始審
治安
府縣
國名
區郡名

訴 控 屋 古 名 所

安濃津	岡崎	名古屋	宇和島	松山	高松	中村	高知
安濃津	岡崎	名古屋	宇和島	松山	高松	中村	高知
三重縣	愛知縣	愛知縣	愛媛縣	愛媛縣	愛媛縣	高知縣	高知縣
伊勢	三河	尾張	伊豫	伊豫	讚岐	土佐	土佐
桑名 員部 朝明 三重	八名 浦設 寶飯 渥美	丹羽 葉栗 中島	喜多 西宇和	宇摩 新居 周布 桑村 越智	野間 久米 風早 上下 浮穴 和氣 伊豫 湯	大内 寒川 三禾 山田 香川 阿野内 小豆	安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡

新
始審
治安
府縣
國名
區郡名

控訴 始審 一治安 府縣 國名 區郡名

所判裁 廣島控訴裁判

山田	岐阜	高山	廣島	尾道	山口	松江	濱田	米子
山田	岐阜	高山	廣島	尾道	山口	松江	濱田	米子
三重縣	岐阜縣	岐阜縣	廣島縣	廣島縣	山口縣	島根縣	島根縣	鳥取縣
伊勢	美濃	美濃	安藝	備後	備前	備前	備前	備前
多氣	美濃	美濃	廣島區	高田	高田	高田	高田	高田
伊勢	美濃	美濃	廣島區	高田	高田	高田	高田	高田
多氣	美濃	美濃	廣島區	高田	高田	高田	高田	高田
伊勢	美濃	美濃	廣島區	高田	高田	高田	高田	高田

所長崎控訴

鳥取	長崎	佐賀	平戶	福江	嚴原	福岡	大分
鳥取	長崎	佐賀	平戶	福江	嚴原	福岡	大分
鳥取縣	長崎縣	佐賀縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	福岡縣	大分縣
因幡	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前
全國八郡	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區
全國八郡	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區
全國八郡	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區
全國八郡	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區	長崎區

控訴 始審 一治安 府縣 國名 區郡名 三十三

控訴
始審
治安
縣名
國名
區郡名

院										
所判裁訴控館函					所					
八戸	弘前	函館			大曲	秋田				
八戸	五所河原	青森	弘前	壽都	福山	江刺	函館	大曲	能代	秋田
青森縣	青森縣	開拓使						秋田縣	秋田縣	
陸奥	陸奥	後志	渡島	後志	渡島	膽島	羽後	陸奥	羽後	羽後
三戸	北津輕	東津輕	西中津輕	島牧	松前	久遠	箱館	仙北	由利	川邊
上北内	下北	上北内	歌棄	磯谷	磯谷	磯谷	上磯	平鹿	北秋田	南秋田
								雄勝		

大尾

明治十五年二月廿九日
全
二月
御届
出版

定價金廿二錢

編纂人

大坂府士族
三三輪 鑿 藏

出版人

大阪府平民
吉岡 平 助

府下東區備後町四丁目
三十七番地寄留

府下東區備後町四丁目
三十七番地

廣告

戸田十畝君編

○大日本刑法註釋大成

全二冊

○大日本治罪法註釋大成

全二冊

本書ハ新刑法治罪法ニ委シク註釋ヲナシ本文ノ難字ニハ句續ノ板名ヲ
 施シ加フルニ願布以後該法ニ關スル綱布告達及ヒ刑法附則ヲ卷末ニ掲
 ケ註釋ヲ施シタル無比ノ良書ナリ世間註釋々義々解々釋々要等ノ書屈
 指ニ遑マアラサルノ多キト庶几繁簡冗長宜キヲ得ル者少シ今是ノ書ノ
 如キハ寔ニ大成ノ名ニ背カザル良書ナリ来月中旬ヲ期シ發兌致候間諸
 君購求ヲ希フ

